

中期経営計画の進捗について

2015年 5月25日

ユニチカ株式会社

代表取締役 社長執行役員

注連浩行

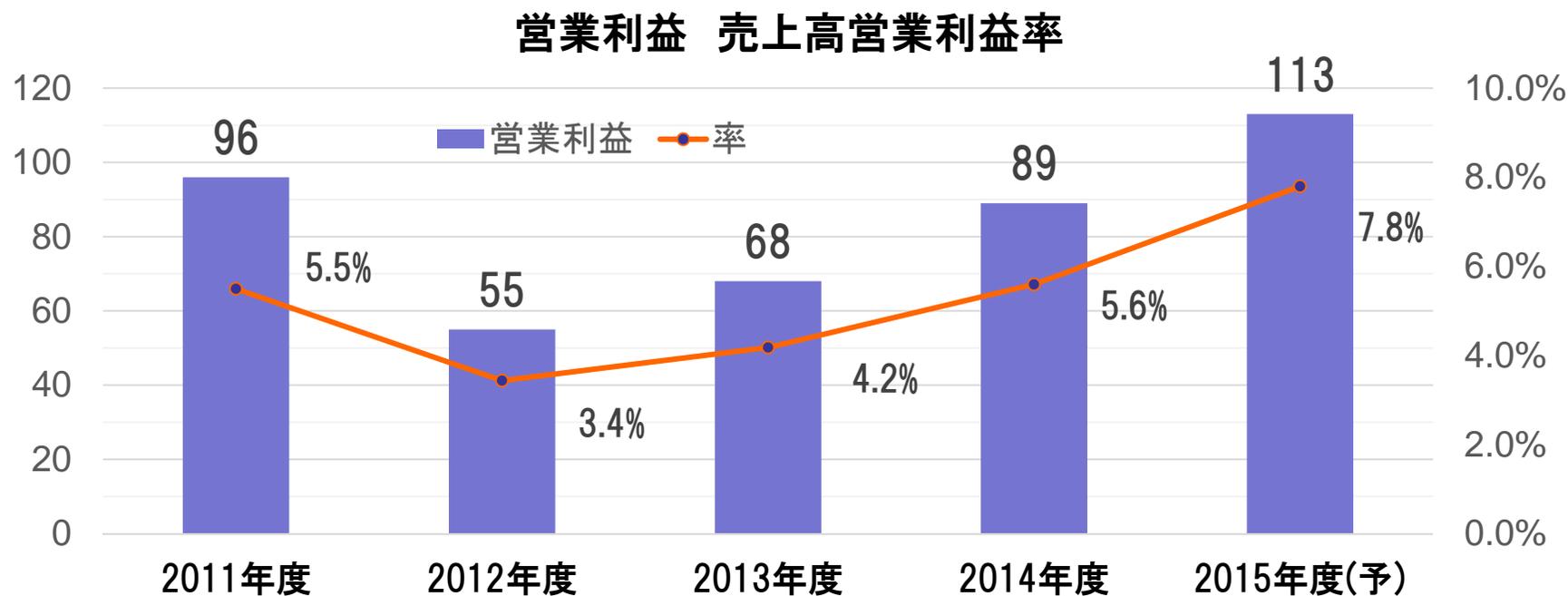
2014年度(計画初年度) 業績結果

- ◆ 繊維事業等で売上が減少するも、全体として利益計画はクリア
- ◆ ポートフォリオ改革の施策を次年度に一部持ち越し、当期純損失は当初計画より好転
- ◆ 中期経営計画の初年度進捗としては概ね順調に推移

[金額単位:億円]	2013年度 実績	2014年度		
		予想-①	実績-②	差異②-①
売上高	1,627	1,650	1,591	▲59
営業利益	68	80	89	+9
経常利益	47	60	77	+17
当期純利益	6	▲370	▲270	+100

◆ 営業利益は改善傾向、今後成長戦略を軸として利益向上を目指す

[億円]	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度(予)
売上高	1,747	1,602	1,627	1,591	1,450
営業利益	96	55	68	89	113



2015年度以降 業績予想・計画

- ◆ 事業ポートフォリオ改革により売上高は大幅に減少
- ◆ 事業の採算改善を図るとともに、成長戦略の実効を上げることにより、更なる利益向上を図っていく

[金額単位:億円]	2014年度 実績-①	2015年度 予想-②	差異 ②-①	2017年度 計画
売上高	1,591	1,450	▲141	1,460
営業利益	89	113	+24	140
経常利益	77	88	+11	120
当期純利益	▲270	30	+300	110

中期経営計画の進捗について

一 計画の概要

[金額単位:億円]	2017年度 計画
売上高	1,460
営業利益	140
経常利益	120
当期純利益	110
純資産	500
有利子負債	1,150
自己資本比率	22%

2013年度
営業利益 68億円
からの増加内訳

成長戦略
+47億円

ポートフォリオ改革
+10億円

コスト削減
+15億円

計画の骨子

I. アジア市場向け、
新素材・新用途向け拡販（成長戦略）

II. 事業ポートフォリオ改革

III. 管理コスト削減と組織機能強化
（収益体質の強化）

IV. 財務体質の健全化

—初年度(2014年度)進捗—

■ アジア市場向け新素材・新用途向け拡販（成長戦略）

[施策進捗]

収益は、中期計画比2割程度進捗

[主な施策]

- ・ 耐熱性ポリアミドフィルムの開発、拡販
- ・ 環境配慮型の接着性樹脂<アローベース>の拡販
高機能PET樹脂の拡販
- ・ ポリエステルスパンボンドの海外展開強化
[◆タスコでの機台増設を意思決定 投資額 約 40億円]

■ 事業ポートフォリオ改革

[施策進捗]

事業撤退・縮小・売却等は概ね計画どおり進捗、一部次年度に

[主な施策]

- ・ 産業繊維事業の一部縮小、生産停止
- ・ グループ ノンコア事業の売却
- ・ 不動産の有効活用

上記施策実行のため、事業構造改善費用として約312億円の特別損失を当年度末に計上
これら施策効果は2015年度以降フルに発現

■管理コスト削減、組織機能強化

[施策進捗]

中期計画比6割程度の進捗

[主な施策]

- ・ 全社コスト (人件費、諸経費等)の削減、
2015年4月に組織改定、人事制度改定を実施

■財務体質の健全化

2014年7月 当初計画どおり資本政策を実施し自己資本増強

成長戦略

- 新バリアナイロンフィルムの拡販
- 耐熱性ポリアミドフィルムなど、工業分野向けフィルムの採用拡大
- エンブレムアジアのナイロンフィルム大型新鋭機の本格稼働による増販
- 高機能樹脂 <アローベース>、<ゼコット>等の拡販、用途拡大
- ポリエステルスパンボンドのグローバルシェア拡大

事業ポートフォリオ改革の完遂

- 計画に基づく事業撤退・売却、及び土地の有効活用
- ビニロン繊維事業の生産停止に向けたオペレーション

管理共通コスト削減の徹底

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。